



# 社会的信頼の高みを目指して

中部電力、中部電力パワーグリッドおよび中部電力ミライズの3社は、託送業務で知り得た情報の不適切な取り扱いや、独占禁止法違反の疑いを持たれたこと、グループ会社において不適切な事象が生じたことを重く受け止めており、深くお詫び申し上げます。お客さまや社会からの信頼が事業運営の基盤であることを肝に銘じ、改めてコンプライアンスの推進に努めるとともに、その取り組みを通じて企業価値の向上へも繋げてまいります。

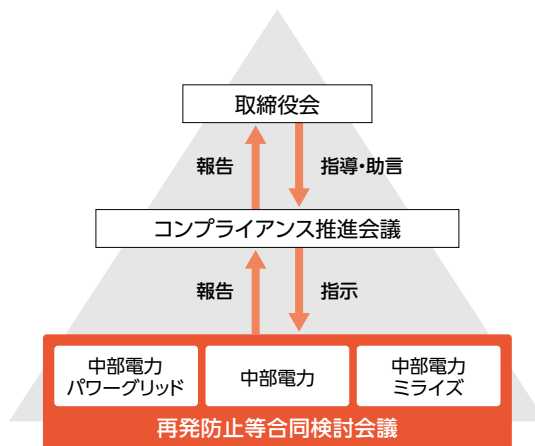
## 中部電力グループの取り組み

自律性・相互啓発の推進や法令遵守に向けた仕組みの定着化等の従来活動を継続・強化し、グループ全体でコンプライアンス徹底・ガバナンス向上に努めます。

自律性・相互啓発の推進	法令遵守に向けた仕組みの定着化	グループ全体でのコンプライアンス推進
<ul style="list-style-type: none"> <li>●各職場でのアクションプラン策定・実施(法令遵守他)</li> <li>●コンプライアンスリスキテラシーの向上(講演会等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●競合他社との接触ルール等、各種規程類の適切な運用・定着</li> <li>●競合他社との接触ルールの理解・促進に向けた教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●チーフ・コンプライアンス・オフィサー連絡会(グループ会社コンプライアンス担当役員との意見交換)</li> <li>●ヘルプライン認知度向上</li> </ul>

### 【託送情報の不適切な取り扱い】にかかる検討体制

中部電力、中部電力パワーグリッドおよび中部電力ミライズの3社で、「再発防止等合同検討会議」を設置し、情報遮断を講じながら、社外監査役や社外弁護士を含む会議メンバーで、事業会社各社が進める再発防止策等の妥当性、対応状況を確認しております。



### 【独占禁止法遵守に向けた取り組みの強化】

①2023年3月30日に、中部電力は公正取引委員会から独占禁止法に基づく課徴金納付命令を、中部電力ミライズは独占禁止法に基づく排除措置命令および課徴金納付命令を受領しましたが、公正取引委員会との間で事実認定と法解釈について見解の相違があることから、同日、取消訴訟を提起することを決定しました。また、②2023年7月14日に、中部電力ミライズは経済産業大臣から電気事業法に基づく業務改善命令を、中部電力および中部電力ミライズは経済産業省 資源エネルギー庁長官から電気事業の健全な発達を実現するための対応を求める指示文書を受領しました。

二度と独占禁止法に関する疑いを持たれることがないように、以前から実施してきた独占禁止法遵守に向けた取り組みを更に強化する「コンプライアンス徹底策」や「業務改善計画」を着実に実施していきます。

①コンプライアンス徹底策について (2023.4.7公表)		②業務改善計画 (2023.7.28公表)
<b>1.コンプライアンス意識の深化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●コンプライアンス意識向上プログラム</li> <li>●研修・教育の実効性向上</li> <li>●行動チェックポイントの実践</li> </ul>	<b>2.独占禁止法遵守の仕組みの強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●競合他社との接触ルールの運用強化</li> <li>●内部通報制度の強化</li> <li>●牽制機能の強化</li> </ul>	外部人材が過半数となる 「改善計画モニタリング会議」新設 等
<b>3.より良い組織風土の醸成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●風通しの良い職場づくり</li> <li>●風化防止</li> </ul>	<b>4.コンプライアンス徹底策のPDCA</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●外部専門家による点検・内部監査</li> </ul>	

社会的信頼の高みを目指して

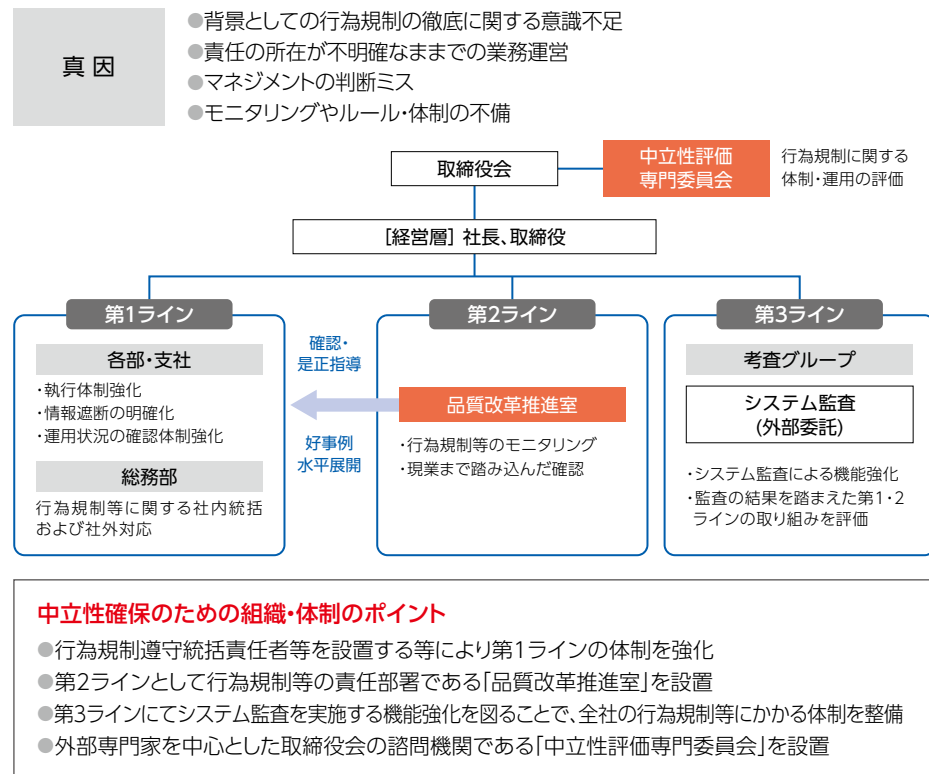
## 託送業務で知り得たお客さま情報の漏えいおよび閲覧事案について

中部電力、中部電力パワーグリッドおよび中部電力ミライズの3社は、託送業務で知り得たお客さま情報の漏えいおよび閲覧事案(以下、「本事案」)を発生させ、2023年4月17日に電気・ガス取引監視等委員会から業務改善勧告を、資源エネルギー庁から指導を受領しました。また、2023年6月29日に、個人情報保護委員会から、中部電力ミライズは指導を、中部電力パワーグリッドは指導および報告等の求めを受領しました。本事案は、一般送配電事業者の中立的な業務運営、およびそれを前提とした小売電気事業者の業務運営のあり方から逸脱した不適切なものであり、二度と同様の事案を発生させることがないように原因究明や再発防止策を実施しました。引き続き、再発防止を徹底してまいります。

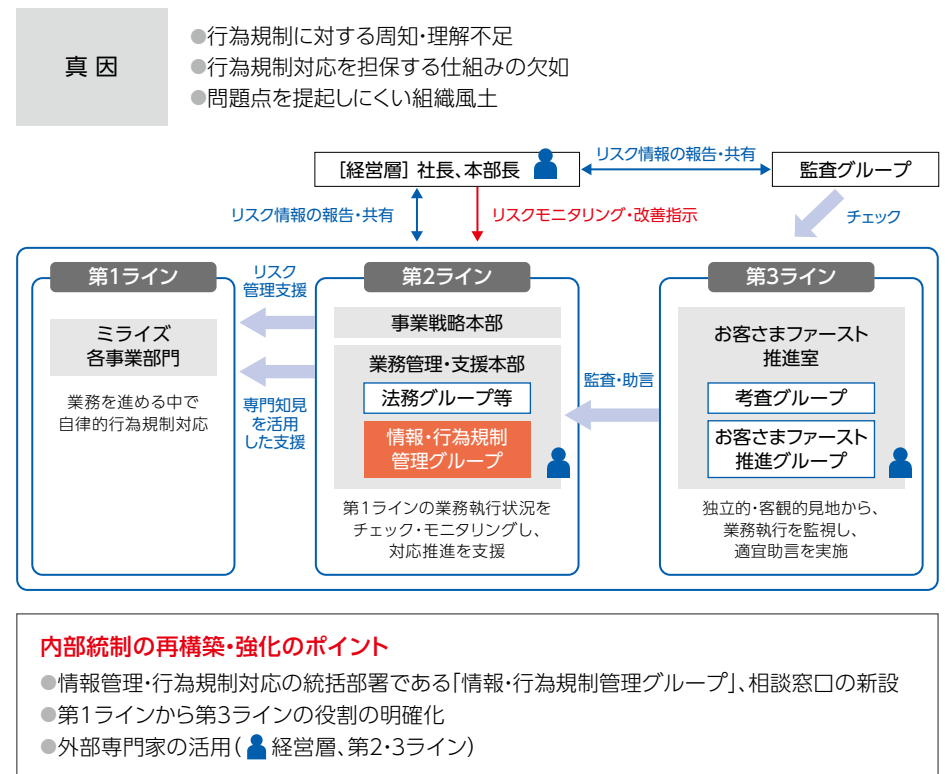
### 【本事案の根本的な原因(真因)と真因への対処(組織・体制の整備)】

現場を含めた実務担当者へのインタビュー等により問題点を深掘りし、真因の特定と外部専門家の活用等の再発防止策を立案、実施しております。

#### ① 中部電力パワーグリッド



#### ② 中部電力ミライズ





## 中部電力グループ 企業理念

中部電力グループは、  
くらしに欠かせないエネルギーをお届けし、  
社会の発展に貢献します。

### 誠意と努力

誠意をもって努力を積み重ね、  
変わらぬ使命を果たし、  
お客さまや社会からの信頼に  
応えます。

### 創意と挑戦

創意をもって新たな挑戦を続け、  
つねに優れたサービスを追求し、  
お客さまや社会からの期待に  
応えます。

### 自律と協働

一人ひとりが互いを  
尊重しながら個性を発揮し、  
協働することで、のびやかで  
力強い企業文化を築きます。

## 中部電力グループCSR宣言

社会からの期待にお応えし責任を果たすために

私ども中部電力グループは、お客さま、そして社会とともに成長し続ける企業グループとして、  
それぞれの個性を活かしながらエネルギーを基軸とした事業に総合力を発揮し、  
安全を最優先に、安定供給を果たすとともに地球環境の保全に努め、持続可能な社会の発展に貢献します。

事業運営にあたっては、国内外の法令・ルールを守り、企業倫理を重んじて公正・誠実に行動します。

事業活動に関わる全ての方々の人権を尊重するとともに、相互コミュニケーションを重視し、  
透明性の高い開かれた企業活動を推進します。

### お客さま

安心・便利・安価なエネルギーサービスをはじめ、  
お客さまのニーズに応える  
価値あるサービスをお届けします

### 株主・投資家

効率経営と効果的投資により、  
収益の維持・拡大を図ります

### 地域社会

地域社会と協調し、地域の  
持続的発展に貢献します

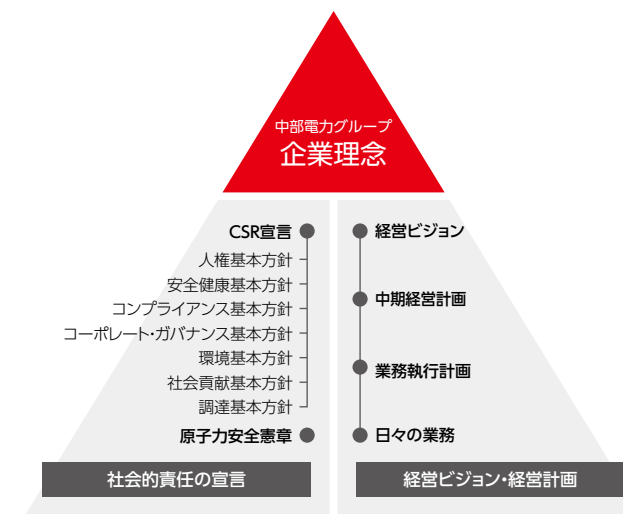
### ビジネスパートナー

事業のパートナーとして  
対等な立場で公正な取引  
を行い、協調してサプライ  
チェーン全体の透明性・  
健全性を高めます

### 従業員

個人を尊重し、多様な人材  
が活躍する明るく働きがい  
のある職場づくりに努めます

## 社会的責任に関する宣言・方針の体系





# ステークホルダーが求める価値提供に向けて

中部電力グループは、企業理念のもと、ステークホルダーが求める価値提供を行うことで、ステークホルダーとともに持続的に成長していくことを目指しています。そのために、ステークホルダーの期待・関心事項を把握するためのステークホルダーエンゲージメントを行い、事業活動を通じて得られた期待・関心事項にお応えしています。

## [主なステークホルダーエンゲージメント]

ステークホルダー	お客さま	株主・投資家	地域社会	ビジネスパートナー	従業員
エンゲージメントの手法 (実績含む)	<p>お客さまとの様々な接点を通じたコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●WEB会員サービスを通じた双方向コミュニケーション</li> </ul> <p>[2022年度末時点 実績]</p> <p>カテエネ会員数:390万名 ビジエネ会員数:57万名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日々の営業活動の中で、お客さまの困りごとやニーズの聞き取り</li> </ul>	<p>アナリスト・機関投資家との対話を通じ、資本市場の動向把握</p> <p>[2022年度実績]</p> <p>決算・経営計画説明会:4回 見学会・事業説明会等:3回 個別面談:207回</p>	<p>浜岡原子力発電所立地地域の皆さまとのコミュニケーション</p> <p>[2022年度実績]</p> <p>発電所見学会:6,158人 意見交換会:1,672人 ちゅうでんサイエンス・フォーラム:252人</p>	<p>取引先に対する説明会の実施、ESG取り組み状況の調査</p> <p>[2022年度実績]</p> <p>調達概要説明会:330社 ESG取り組み状況の調査:345社</p>	<p>エンゲージメントサーベイおよび役員との対話等の実施</p> <p>従業員の会社・所属に対するエンゲージメントを調査し、各所属単位で結果を分析</p>
得られた期待・関心	<ul style="list-style-type: none"> <li>●将来の電気料金の見通し及び安定性</li> <li>●省エネ、脱炭素化への関心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ビジョン実現に向けた具体的な収支向上施策とロードマップ</li> <li>●配当に対する考え方</li> <li>●気候変動に対する考え方</li> <li>●ガバナンスへの対応方針 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●原子力発電の必要性に対する疑問</li> <li>●福島第一原子力発電所の事故を踏まえた浜岡原子力発電所の対策</li> <li>●高レベル放射性廃棄物の最終処分の問題 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公平・公正な取引</li> <li>●ESG(人権・環境等)に配慮した調達</li> <li>●パートナーシップの向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●上司による適切な支援力および自社事業における社会的貢献感に満足</li> <li>●企業理念・ビジョンへの期待・関心には改善の余地あり</li> </ul>
期待・関心への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>●料金負担軽減策の実施</li> <li>●「省エネ」「創エネ」「活エネ」の脱炭素化の実現に向けた3つのサポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●TCFD等の定量的開示推進</li> <li>●ガバナンス関係の調査状況とその対応策の逐次共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各活動を通じて日頃より、期待・関心に対応</li> <li>●経済産業大臣へ年次報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日々の調達活動を通じて日頃より、期待・関心に対応</li> <li>●ESG調達推進に向けた各種社内研修等の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所属単位の職場改善活動</li> <li>●ビジョン浸透ワークショップ開催(ビジョン浸透活動推進)</li> <li>●社内イントラサイトで従業員に向けて結果を公開</li> </ul>

ステークホルダーとともに持続的な成長

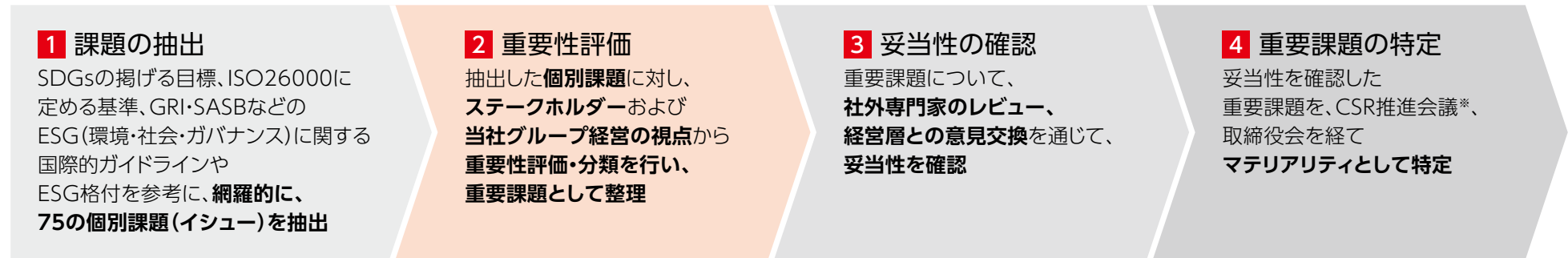


# 中部電力グループのマテリアリティ(重要課題)

## マテリアリティの特定プロセス

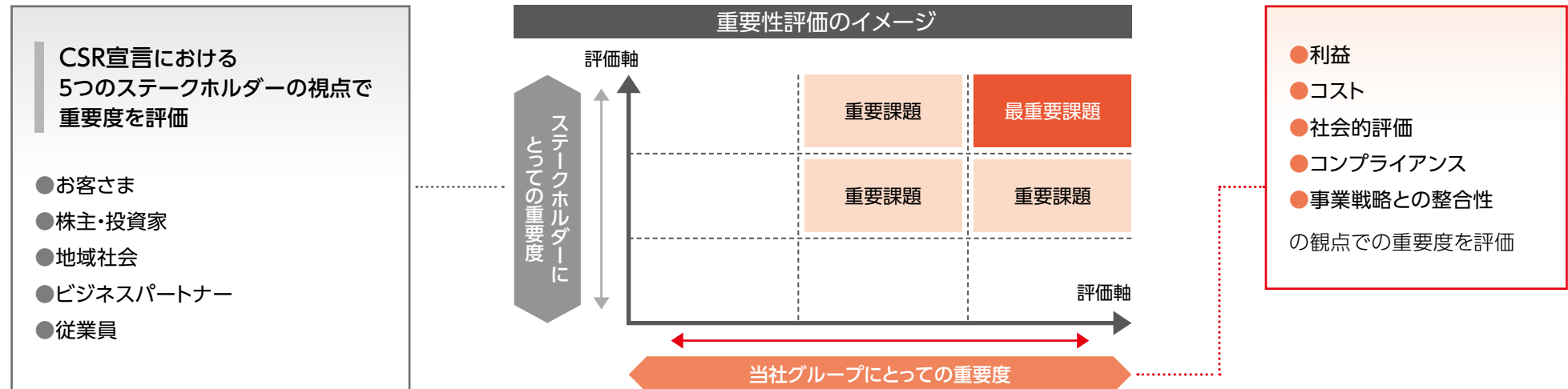
中部電力グループは、持続可能な社会の発展に貢献するため、当社グループの行動規範であるCSR宣言に基づき事業活動を展開し、企業理念に定めた私たちの社会的使命を果たすことで、社会とともに成長していきたいと考えています。

そのため、以下のプロセスを通じ、中部電力グループのマテリアリティ(重要課題)を特定し、対応する指標・目標を定め、課題解決に優先的に取り組んでいます。特定した重要課題は、事業を取り巻く環境に応じ変化するものであり、定期的に見直していきます。



※CSR推進に係る重要事項について経営層で審議するため、社長を議長として2021年10月に設置

## 重要性評価の手法



中部電力グループのマテリアリティ  
(重要課題)

## 主なマテリアリティのリスク・機会、対応の目標・実績

[Link](#) 中部電力グループのマテリアリティ詳細

	マテリアリティ	リスク	機会	主な指標・目標	達成年度	2022年度実績(進捗状況の評価 <sup>※5</sup> )	主な関連ページ
E 環境	お客さま・社会とともに進める脱炭素化 <sup>※1</sup>	●エネルギー政策の見直し	●脱炭素化への強い社会的要請	●販売由来のCO <sub>2</sub> 排出量削減 ▲50%(2013年度比) 約3,250万t ●再エネ拡大 320万kW	2030年度 2030年度	2013年度比 ▲1,960万t (2013年度比約30%削減) 74万kW	P37-42 P47-48
	原子力発電の安全性向上・活用促進	●新規制基準適合性確認審査の遅延	●GX実現に向けた基本方針	●浜岡原子力発電所の再稼働	早期	原子力規制委員会による新規制基準への適合性確認審査における着実な進捗	P43-46
	脱炭素社会に向けた次世代ネットワークの構築	●再可能エネルギー大量接続に伴う潮流の複雑化等による安定供給への懸念	●再生可能エネルギー導入ニーズの高まり	●地域別電力需要予測(DFES)を用いた設備計画立案 ●コネクト&マネージ実現に向けた取り組みの確実な実施	2023~2027年度	地域別電力需要予測(DFES)開発 左記、目標に対する取り組みを実施	P49-50
S 社会	地域・社会への貢献 <sup>※2</sup>	●人口減少や経済成長の鈍化などに伴う地域コミュニティの希薄化	●コミュニティ課題解決に対するニーズの高まり	●きずなネットを活用した子育てコミュニティの事業化	2024年度	カラダノートとの連携による事業化検討の実施	P55-56
	お客さま満足の追求	●競合他社との競争激化	●多種多様なサービスに対するお客さまニーズの高まり	●NPS <sup>®</sup> 推移 対2022年度差異 +12.8	2025年度	2022年度よりNPS <sup>®</sup> を活用開始	P51-52
	DXを活用した業務変革・新たな価値創出	●DXによる新たな働き方や先端技術への対応遅延	●デジタル技術を活用した業務の変革	●予測精度の維持・向上など継続的にAIモデルを活用するための支援体制・AIモデル開発・運用基盤整備開始1件	2025年度	2023年度着手予定	P33
	人的資本への投資 <sup>※3</sup>	●事業環境の変化に伴う人的資源のありたい姿と現状のギャップの拡大 ●労働人口減少に伴う人材獲得競争激化	●安定供給の進化・事業領域拡大に必要な多様な人材の活躍	●エンゲージメントの向上 [A]以上	2025年度	BBランク	P31-32, 61-65
				●男性育児休業取得率 100%	2025年度	92.6%	
企業価値向上に向けたグローバル事業の展開	●海外の政治・経済情勢不安(カントリーリスク増大)	●世界的な脱炭素事業への関心の高まり	●累積投資額4,000億円程度(2021~2030年度)利益200億円程度の実現	2030年度	累積投資額約331億円(2022年度末時点)利益約74億円(2022年度)	P53-54	
G ガバナンス	コンプライアンスの徹底 <sup>※4</sup>	●コンプライアンスに関する社会的信用の低下	●ステークホルダーの信頼獲得	●中部電力グループ一体でのコンプライアンス推進施策の実施	2023年度	コンプライアンスの徹底(CCO(チーフ・コンプライアンス・オフィサー)の設置)コンプライアンス推進体制の見直し	P15-16, 83-84
	グループ会社含むガバナンス・リスク管理の強化	●子会社等に起因するグループ全体の信頼低下 ●サイバー攻撃やITシステムの不備	●意思決定の公平性・透明性の向上	●取締役会の実効性評価の確実な実施と継続的な改善	毎年度	社外取締役比率の向上 子会社における監査等委員就任	P79-82
				●サイバー攻撃における業務影響 0件	毎年度	サイバー攻撃における業務影響 0件	P82
レジリエンス・大規模災害対応力の強化	●自然災害の激甚化	●レジリエンス意識の高まり ●安定供給ニーズの再認識	●低圧電灯年間停電量(内生的要因) 49MWh	2023年度	46.7MWh	P49-50	

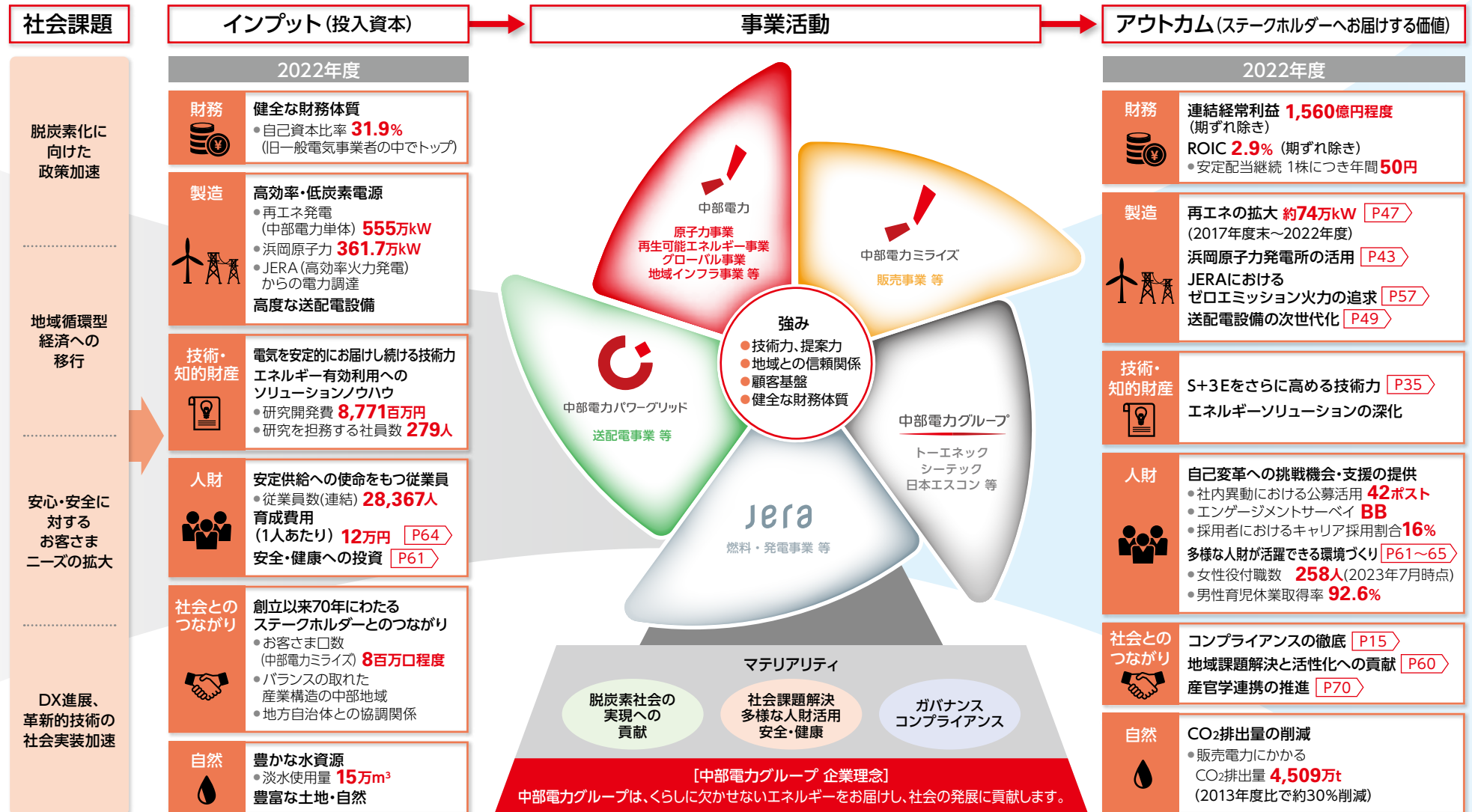
※1 再生可能エネルギーの促進、脱炭素技術をはじめとした新技術の開発・社会実装、環境経営の実践含む ※2 新しいコミュニティづくり、循環型社会の実現を含む。なお、産学連携等の地域・社会課題の解決については、上記マテリアリティ詳細リンクを参照

※3 多様な人材の確保・育成、安全・健康を含む ※4 腐敗防止、人権の尊重含む ※5 次の3段階で評価: 目標通り 緑 目標をやや下回る 黄 目標を大幅に下回る 赤



# 価値創造プロセス

「中部電力グループ 経営ビジョン2.0」 人財一人ひとりの成長・活躍を通じたお客さま・社会への多様な価値の提供による、地域・社会の持続的な発展への貢献



価値創造プロセス

経済価値創出

2025年

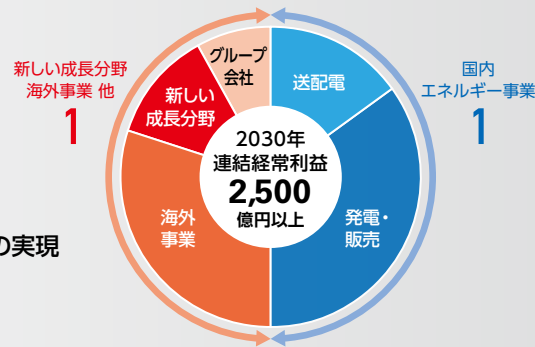
- 連結経常利益 **1,800**億円以上
- ROIC **3.0%**以上

P24 (中期経営計画)

2030年

- 連結経常利益 **2,500**億円以上
- バランスの取れた利益ポートフォリオの実現

P24 (ビジョン2.0)



2050年

目指すべき社会像

- 安心・安全で強靱な暮らしやすい社会の実現
- 脱炭素社会の実現  
事業全体のCO<sub>2</sub>排出量ネットゼロ



安心・安全  
社会

多様化する  
価値観・ライフスタイルに  
合わせたサービスを実現し、  
お客さまや社会とともに、  
持続的に成長

分散・循環型  
経済

脱炭素  
環境



社会価値創出

(マテリアリティ:重要課題への取り組み)

2025年

- エンゲージメントサーベイスコア **[A]**
- 採用者数に占めるキャリア採用者の割合 **20%**
- 社内異動における公募活用 **300**ポスト (概ね異動規模の1割)
- お客さま・社会へ新たな価値のお届け
- 電力ネットワークの次世代化

2030年

- 販売由来CO<sub>2</sub>排出量 **50%**削減 (2013年度比)
- 再エネ拡大 **320**万kW